

ホウロクイチゴ *Rubus sieboldii* Blume

【評価理由】

愛知県に生育するという報告があるが、標本を確認できない。記述から推定すれば、絶滅危惧 I B類になると思われる。

【形態】

常緑つる性木本で長さ2~3mになる。茎は太く黄褐色毛を密生し、細い刺も散生する。斜上または横にはい、先で地面に接すると根を出す。葉は互生し、大きく広卵形で長さ8~20cm、深緑色で厚く硬質、縁は欠刻と粗鋸歯があり、裏面に汚黄白色毛を密生し、葉脈上に刺がある。花は大きく白色で5~6月に開花し、葉腋の短総状花序に1~数个つく。萼は淡黄褐色の綿毛を密生する。花弁は1.5~2cmで萼片より長い。実は集合果、球形で径約2cm、6~7月に紅色に熟す(小林 2012)。ただし、この記述が愛知県産の材料についてのものか、もっと広域の材料についてのものかはよくわからない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部で記録されている(小林 2010, 2012)。2007年5月に撮影されたという写真も掲載されている。

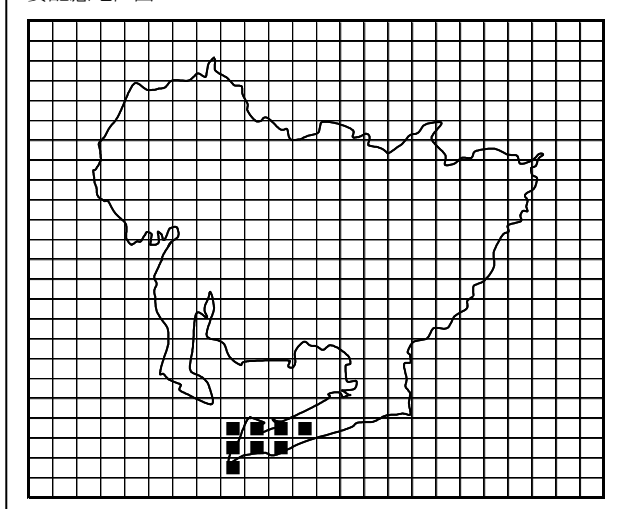
【国内の分布】

本州(中部地方以西)、四国、九州、琉球。紀伊半島南部まで行けばそれほど稀でない種類である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の海岸近くの林縁などに生育する。愛知県の自生地は、「常緑樹林の中のギャップ」と記述されている。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | ○ | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況／減少の要因】

「群生」と記述されている。

【保全上の留意点】

現地の状況を見ていないので、よくわからない。一般的には攪乱地に生育する植物なので、遷移が進行すればやがて消失すると思われるが、その一方で他の場所に出現する可能性もある。

【特記事項】

オオフユイチゴ *R. pseudo-sieboldii* Makino は茎葉が本種とフユイチゴの中間のような形状をしている植物で、愛知県では13 豊川、14 蒲郡、15 豊橋北部、17 田原東部、30 岡崎南部、36 西尾南部に生育している。この種は、2001年版では準絶滅危惧と評価したが、確認自生地が増加し、2009年版ではリスト外になった。

【引用文献】

小林元男. 2010. 第7章第2節 愛知県の絶滅危惧植物. 愛知県史編さん委員会(編), 愛知県史別編自然 pp.574-596. 愛知県.
小林元男. 2012. 愛知県樹木誌 p.620. 自刊.

【関連文献】

保木本 II p.79-80, 平木本 I p.207, 平新版 3 p.47.